



製品特徴：

Parex の EIFS スタンダード・スタンダード
エクストラ・プレミアム・ウォーターマス
ター用ベースコート

記載された下地に EPS ラミネートを施す際の
接着剤

50% アクリル系接着剤・50% セメント
ポルトランドセメントを加えてお使い下さ
い。

用途：

下記下地の EPS 接着剤として使用出来ます。

- 外部地盤面の石膏下地
- グラスファイバー強化石膏下地
- モルタル
- コンクリート
- セメントボード

下記 Parex システムのベースコートとして使
用出来ます。

- スタンダード
- スタンダードエクストラ
- プレミアム
- ウォーターマスター

モルタル・コンクリート・漆喰の表面にはレ
ベラー・充填材として使用出来ます。この施
工に関しては、ベースコート 121 のみ一度塗
り、9.5mm(3/8 インチ)の厚みまで重ね塗り
が出来ます。

組成：

結合基材：アクリルポリマー100%
ポルトランドセメントとの混合可能

水性：VOC 準拠

色：ライトグレー

水蒸気透水性 79.45 Perms

(ASTM E-96 procedure "B")

問い合わせ先：

有限会社 インターナショナル・プライオリティ・プロジェクト

〒465-0087 愛知県名古屋市名東区名東本通3-42

：(052) 704-9181 Fax：(052) 704-9183

E-mail：ippgeneral@i-p-p.com

Visit our website at <http://www.i-p-p.com>

施工面積：

接着剤として
 25kgペール缶：
 Parex8mm(5/16インチ)ノッチコテで
 20-23㎡(220-250ft²)
 Parex16mm(5/8インチ)ノッチコテで
 16-17㎡(170-190ft²)
 Parex Standard Mesh 355を塗り込む時
 のベースコートとして
 25kgペール缶：
 16.7-19.5㎡(180-210ft²)
 Parex Standard Mesh 355とUltra High
 Impact Mesh 20を塗り込む時の2層
 ベースコートとして
 25kgペール缶：
 14-17㎡(150-190ft²)
 Premiumシステムの2層ベースコート
 として
 25kgペール缶：
 7-14㎡(75-150ft²)
 レベラーとしての施工面積は施工を
 施す際の厚みに拠ります。

容量：

25kg (55lb)プラスチック製ペール缶(正味重量)

保管方法：

常に日光を避け、凍結しないようにして下さい。

有効期間

日光にあたらず、凍結しない状態で一年間

作業時間：

セメントを加えて後、1-3時間で作業を行って下さい。湿度・温度に影響されます。

乾燥時間：

湿度・気温によりますが、1-4日で十分な接着強度が出ます。

清掃：

乾燥する前は水溶性ですので、乾燥する前に容器や道具を水で洗って下さい。

下地処理：

平面の凹凸は6mm(1/4インチ)まで、半径1219mm(4フィート)以下表面の凹凸は6mm(1/4インチ)まで、モルタルやコンクリートでは3mm(1/8インチ)、シーリングではそれ以下となります。

より良い施工を行うために、施工面から埃や汚れを取り除いて下さい。塗装が施された面に施工をする際には、その塗装面積が全体の10%以下になるように、塗装面を取り除いて下さい。

その他、ご質問等ございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

攪拌：

異物の付着していない清潔な容器をお使い下さい。

25kg(55lb)のParex Base Coat 121を3.75(1ガロン)の飲料水で十分に攪拌して下さい。攪拌には、回転速度400-500rpmの防錆パドル付13mm(1/2インチ)のドリルをお使い下さい。

事前に、ポルトランドセメントを25kg(55lb)計量しておいて下さい。

Base Coat & Adhesive 121とポルトランドセメントの比率が最終的には1:1になるように少しづつ両方を混ぜ合わせて行って下さい。

状態により、少量の飲料水を加える必要があるかもしれません。

最初の攪拌が完了したら、5分ほど様子を見て下さい。再度攪拌の必要があれば、もう一度行って下さい。

ある程度まとめた量を攪拌することも可能です。

Parex Base Coat & Adhesive は、攪拌後すぐにをお使い下さい。使用しない場合は容器の蓋を閉めて下さい。

即効結合剤・不凍剤・促進剤・溶剤・顔料などはどのような状況でも一切加えないで下さい。

施工方法：**接着剤**

モルタルやコンクリートにはParex 16mm(5/8インチ)のノッチコテを、屋根の野地板にはParex 8mm(5/16インチ)のノッチコテ使い、断熱板表面全体に施工して下さい。1コテの厚みは均一になるように水平に動かして、1片の断熱板の端まで一息に塗って下さい。接着剤が均一に、有効に働くように、表面全体に圧力をかけて断熱板を壁に押しあてて下さい。接着剤の畝が平らになるように十分に圧力をかけて下さい。グラスファイバー強化石膏下地にはもっと強い圧力が必要です。

ベースコート

24時間が経過し接着が完了したら、EPSボードにヤスリをかけて下さい。ステンレス製のノッチを使用し、断熱板のヤスリをかけた表面にBase Coat 121の混合物を施工して下さい。この時、厚みは1.5-2.4mm(1/16-3/32インチ)となるようにして下さい。Base Coat 121の混合物が濡れている内にParexの強化メッシュを載せて下さい。強化メッシュが十分に塗り込められるまでコテを使って表面を滑らかに整えて下さい。この時、厚みは約1.5mm(1/16インチ)となるようにして下さい。強化メッシュの網目がBase Coat 121の表面から見えないようにして下さい。

注意事項等：

施工中及び養生中は周囲と表面の温度は必ず4℃を下回らないようにして下さい。必要に応じて補助暖房や降雨対策を施して下さい。

Base Coat 121と表面の結合を妨げになるような残留物は取り除いて下さい。傷みのない、清潔で、乾燥した、塗装の施されていない施工面のみ、施工を施して下さい。直射日光の当たる暑い気候での施工はお止め下さい。

EPSにはレベラーを使用せず、ヤスリがけで平らにして下さい。